

平成 18 年度事業報告

1. 学術研究業績の表彰

本財団の寄付行為に定められている目的を実現する方策として設立した日本農学進歩賞は、日本の農学に従事している萌芽的な研究成果をあげた若手研究者を毎年10名程度顕彰する制度である。今年度は20機関からの推薦があり10名を表彰した。

第5回農学進歩賞授賞式及び記念講演会を平成18年11月27日（月）に実施した。

また、平成14年度に新設したアジア獣医学奨励賞（ヒルズ・アワード）をアジアの獣医学大学学部在籍する若手、中堅大学の中から4名に顕彰するための選考を行い、平成18年7月12日にジャカルタにおいて授与式を実施した。

2. 農事に関する重要な事項の調査

(1) 日本技術者教育認定機構（JABEE）技術者教育プログラム（農学一般関連分野）審査事業本技術者教育認定機構（JABEE）の幹事学協会として2校の技術者教育プログラム（農学一般関連分野）の審査を実施した。

(2) 日本技術者教育認定機構（JABEE）普及指導活動

① JABEEでは平成13年度からJABEE公認の分野別審査員候補者研修会を開催することを認めているため、(財)農学会が中心となり農業工学関連分野、森林関連分野、生物工学関連分野の幹事学会である各学会と共催して審査員候補者研修会を開催した。

日 時： 平成17年7月29日（土）

会 場： 東京大学農学部 弥生講堂

講 師： 9名

参加者： 76名

② 指導員派遣（実地相談）の実施（2校）

日本技術者教育認定機構（JABEE）の幹事学協会として2校（3プログラム）の技術者教育プログラム（農学一般関連分野）の実地相談を実施した。

(3) 農学一般関連分野産学連携プラットフォームの開催

日 時： 平成19年 1月10日（水）15:00～17:00

場 所： 東京大学農学部 3号館 大会議室（4階）

出席者： 産業界側5名、大学側5名、オブザーバー13名

① 農学教育の現状と問題点（学部教育、大学院教育をあわせて）

② 産業界が大学に望むこと

○ 技術者教育プログラム（JABEE）の説明

○ 技術士制度の説明

○ 学部について

○ 大学院について

③ 大学が産業界に望むこと

○ JABEE プログラム修了生の受入

○ 早期採用活動の学業への影響

④ 総合討論

3. 学術講演会の開催

学術成果を社会に還元するため公開セミナー等を農学会主催、共催、協賛で開催した。

1. 「自然再生がめざすもの」

日 時 平成 18 年 5 月 13 日 (土) 13:30~17:00

会 場 東京大学農学部 1 号館 8 番教室

タイトル 「自然再生がめざすもの」

講 演

「自然再生の理念と政策」

小野寺浩 (COE 特任教授、元環境省自然環境局長)

「環境倫理と自然再生」

鬼頭秀一 (COE メンバー、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

「自然再生をめぐる世界のうごき」

鷲谷いづみ (COE リーダー、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

コメントと会場を交えた討議 (司会 鷲谷いづみ)

コメンテーター 武内和彦、宝月岱造、西田睦 (COE サブリーダー)

東京大学 21 世紀 COE プログラム「生物多様性・生態系再生研究拠点」との共催

参加者 212 名

2. 「農学の未来」

日 時 平成 18 年 6 月 24 日 (土) 13:30~

会 場 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

「経済のグローバル化とこれからの農業」

農業・資源経済学専攻 教授 本間正義

「地球気候変動と森林」

森林科学専攻 教授 鈴木雅一

「生活習慣病と食の未来」

応用生命化学専攻 教授 佐藤隆一郎

パネルディスカッション 「農学の未来」

東京大学大学院農学生命科学研究科と共催

参加者 204 名

3. 「立ち上がる農山漁村」

日 時 平成 18 年 9 月 3 日 (日) 14:00~17:00

会 場 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

タイトル 「立ち上がる農山漁村」

プログラム

地区事例紹介

長野県小谷村：20 年続けてきた村の山村留学事業廃止を受け、地域住民が自力で山村留学を継続しようとする活動に企業も協力

山口県下関市：I ターンで農村に入った代表者の下、茅葺民家の再生保全やイベントを通じ

での 地産地消、農業体験による交流活動を展開

高知県馬路町：特産ゆずを中心にデザイン事務所と連携して村全体をブランド化することにより 林業の低迷で停滞した村を活性化

パネルディスカッション

「農山漁村が再び活性化するための創意工夫と新たな力」

パネリスト

新谷 哲雄 (NPO 法人歌野の自然とふれあう会事務局長)

東谷 望史 (馬路村農業協同組合長)

矢口 富士郎 (小谷山村留学育成会理事長)

永島 敏行 (俳優「立ち上がる農山漁村」有識者会議委員)

林 良博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授

「立ち上がる農山漁村」有識者会議座長)

山田 修路 (農林水産省農村振興局長)

参加者 170名

4. 「農学の未来」

日 時 平成 18 年 11 月 18 日 (土) 13:30～

会 場 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

タイトル 「農学の未来」

「立ち上がる農山漁村」

農学国際専攻 教授 林 良博

「動物医療研究が臨床医学の先端を切り拓く」

獣医学専攻 教授 佐々木伸雄

「木質バイオマス完全利用の可能性」

生物材料科学専攻 教授 鮫島正浩

パネルディスカッション「農学の未来」

東京大学大学院農学生命科学研究科との共催

参加者 167名

5. 「人里に出没したクマをどうするのか、人里にクマを出没させないための方策は」

日 時 平成 19 年 2 月 11 日 (日) 13:00～17:30

会 場 東京大学弥生講堂一条ホール

後 援 日本クマネットワーク、岐阜大学 21 世紀 COE プログラム、
東京大学 21 世紀 COE プログラム

タイトル「人里に出没したクマをどうするのか、人里にクマを出没させないための方策は」
講 演

2006 年のツキノワグマ大量出没とその対応

「ツキノワグマ保護管理の課題」

米田政明 (自然環境研究センター)

「長野県におけるツキノワグマの保護管理計画と大量出没の実態」

岸元良輔 (長野県環境保全研究所)

「福島県における平成 18 年度のクマ出没状況」

溝口俊夫（福島県鳥獣保護センター）

クマが出没したときの方策、出没させないための方策

「学習放獣と森林動物専門制度を中心としたツキノワグマ出没対策」

横山真弓（兵庫県立人と自然の博物館）

「軽井沢町のツキノワグマ保護管理におけるベアドッグの使用例」

田中順平（特定非営利活動法人ピッキオ）

「クマを出没させないための、日本の森林生態系管理」

石田 健（東京大学大学院農学生命科学研究科）

「クマダスで、被害の未然防止－出没メカニズムと出没予測手法の研究－」

大井 徹（森林総合研究所）

総合討論と提言

コメンテーター

河野昭一（京都大学名誉教授）

羽澄俊裕（野生動物保護管理事務所）

山中正実（知床財団）

提言者

鷺谷いづみ（東京大学大学院農学生命科学研究科）

山際大志郎（衆議院議員）

坪田敏男（岐阜大学応用生物科学部）

参加者 380名

4. 印刷物の刊行

(1) 第5回日本農学進歩賞受賞者講演要旨集刊行

年1回、300部（52頁）

(2) 農学・農業関連分野の情報発信と情報交換を促進するため農学関連の教育研究機関（農学部関係、日本農学会所属学会など）各種農業団体等のホームページの作成、改良、運営を支援した。

5. その他目的を達成するために必要な事業

弥生講堂一条ホール内において学会等を開催する諸団体の要望及び農学会の自主的財源による事業拡大の方策として備品類（液晶プロジェクター、スライドプロジェクター、展示パネル等）の貸出業務を行った。

6. 会議開催について（理事会、評議員会）

平成18年度中に理事会、評議員会を2回開催し、主として次の事項について審議した。

(1) 平成18年度事業並びに決算について

(2) 平成19年度事業計画並びに予算について

(3) JABEE 幹事学協会としての事業について

(4) 農学会の活性化について